

平成28年2月24日

第140号



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「コンクリート異形ブロック谷止工」（新潟県糸魚川市）

（撮影者：上越森林管理署）

森林整備の低コスト化の推進

棚倉森林管理署において列状間伐現地検討会を開催

森林整備部 資源活用課

## 新局長に漆原勝彦氏

(2月1日付)



漆原新局長

2月1日付で志田孝一局長が退任し、新局長に漆原勝彦氏が就任しました。  
漆原新局長から就任にあたり次の訓示がありました。

平成25年4月から26年7月まで林政課長を務めており、約1年半ぶりに林野の仕事することになった。林政課長のときは、丁度、国有林野事業が一般会計化された頃であり、

林業の成長産業化が強く打ち出された時であった。当時も、我が国の森林林業に追い風が吹いてきている印象があったが、最近、その追い風が益々強くなってきたと感じている。

そういった時期に再び林野の仕事をする事になり、ありがたくうれしく思っている。

一方で、追い風が吹いている状況だからこそ、林業の成長産業化の実現に向けて、国有林野事業が積極的に貢献をしていくことで、森林・林業・木材産業の関係者や国民の皆様方の期待にしっかりと応え、また、実際に評価していただけるようにしていく必要があると考えている。

また、社会的に関心の高い花粉発生源対策、鳥獣害対策、除染の問題などについても、皆さんと力を合わせて前に進めていきたい。皆様方からしっかりと話を聞き、また、いろいろ教えていただきながら仕事を進めていきたい。

服務規律の遵守についても一言申し上げておきたい。服務規律違反については、林野庁全体、農林水産省全体の信用を損ない、職場に無用

な混乱を生じさせ、業務の円滑な運営に大きな支障となることは言うまでもないが、また、何より、ご本人ご家族の生活への悪影響は計り知れない。

特に、飲酒がらみの不祥事については、厳しい懲戒処分も行われている。

服務規律の遵守、特に飲酒がらみの不祥事を起こすことのないよう、くれぐれもよろしく願う。

皆様方とともに、関東森林管理局がより良い方向へ進んでいけるようにしていきたいと思っており、よろしく願う。

略歴  
漆原 勝彦 出身 鳥取県

昭和61年4月

農林水産省入省

平成25年4月

林野庁林政部林政課長

平成26年8月

独立行政法人

農畜産業振興機構総

平成27年4月

中国四国農政局次長

括調整役

## 今月の表紙

平成27年度梶山地区広道倉  
沢復旧治山工事(コンクリート異形ブロック谷止工)

当箇所は、新潟県の最西部、糸魚川市に位置する日本百名山「雨飾山(あまかさりやま)」に源流をなす根知川支流域で実施している復旧治山事業です。

この地区は、過去に豪雨災害が発生しており、山腹崩壊地からの土砂が下流の国道や鉄道に被害を与えたことから、下流の民有林を担当する新潟県と連携し、特定流域総合治山事業として、平成21年度から溪流の安定と浸食防止を図るための谷止工(ダム)を主体に復旧事業を行っています。





# 森林整備の低コスト化推進

## 棚倉森林管理署において列状間伐現地検討会を実施

### 森林整備部 資源活用課

平成27年11月11日に棚倉森林管理署管内において周辺森林管理署及び関係請負事業者等の参加のもと、「低コスト作業システム推進のための列状間伐現地検討会」を開催しました。

昨年度は、列状間伐に積極的に取り組んでいる茨城森林管理署管内の列状間伐施業地において開催し、伐倒・集材時の安全が確保でき、低コストで高効率な施業ができることについて確認しました。

しかしながら、参加した森林管理署の列状間伐に対する取組があまり進んでいない状況となっています。

今回、発注者として作業の安全性が高く、高効率低コスト施業の認識をより深めてもらうため検討会の開催案内をさせていただいたところ、総勢130人（事業体関係者50名、県関係者4名、局署職員76名）での開催となりました。

### 午前の部

午前は、棚倉町のルネサンス棚倉で開催しました。

開会にあたり、寺川森林整備部長より「森林資源の成熟により今後は主伐に伴う再造林の増加が見込まれることから、伐採跡地の確実な更新を担保しつつ、森林吸収源対策とし



寺川森林整備部長挨拶

て民国合わせて年平均52万鈔の間伐の予算を確保していかなければならない。

このため林野庁では平成28年度予算要求に際して、低コスト化に向けて、造林補助金の思い切った見直しを検討している。

国有林における低コスト化の推進については、厳しい予算事情もあるが、民有林から注視されていることも意識して、取組の加速化を図って



参加者



坂井棚倉森林管理署長

いくことが重要である。来年度から初回間伐は原則列状であり、当検討会を通じ列状間伐を推進することにより、実効の伴う低コスト作業の推進及び林業労働安全の確保に期待する。

事業体の方々も今回の検討会で納得していただければ、列状間伐の推進にご協力をお願いしたい。一旨の挨拶がありました。

また、主催署である棚倉森林管理署坂井署長より、「林業における労働災害の発生率の高い現状をふまえ、事業の発注者である森林管理署が、列状間伐を取り入れることにより少しでも伐倒によるかかり木を減少さ

せ、労働災害の減少に努めていきたい。」旨の挨拶がありました。

続いて、「低コスト作業システムへの取組（列状間伐のすすめ）」という題名で渡邊間伐推進担当企画官より、スライドと配布資料を用いて「国産材の現状を踏まえた低コスト作業の必要性、列状間伐を導入していかねばならない理由及び列状間伐の優良取組事例等」について説明があり、保育間伐活用型の収穫調査は「軸足を列状間伐に置いた考え方」で施業方法を計画していくこと、また、参加した事業体に対して、事業体の間伐コスト削減の必要性、産業としての林業経営を再生するためには、事業体の安定した経営が不可



渡邊企画官の説明

欠であること、森林資源の現状等からみると目指すべき「林業の成長産業化」は不可能でないことの説明がありました。

## 午後の部

午後は、鮫川村の鹿角平観光牧場に隣接する会場に移動し、棚倉森林管理署の列状間伐施業地において、棚倉森林管理署山浦総括森林整備官より事業地の概要、施業前の林地の状況、収穫調査時点の標準地を再現したプロットを用いて列状間伐の収穫調査の手法について詳しく説明がありました。



現地検討会

また、事業を実施した有限会社スズキ木材（奥久慈林業協同組合）の鈴木主任と同作業員より、はじめて列状間伐を施業するに当たったの体験談について、実演を交えて説明がありました。

内容は、生産性の向上、伐倒によるかかり木の発生頻度及び林地残材を利用した残存木への配慮等で話があり、中でも苦労した伐採列の選定については、作業をする中で3人がセットとなり森林作業道、尾根及び中段に人を配置し見通すことによりスムーズな伐採列の選定ができた間がかからなくなった。

また、尺棒を利用することによって列を管理・確認するということが可能になったとのこと

でした。参加者からは「生産性の向上」「かかり木の発生の頻度」等々の質問や意見が出され参加者間で列状間伐への理解を深めることができました。

最後に、内海資源活用課長より「列状間伐は事業体の労働安全を図るうえで、伐倒によるかかり木の発生が少なく大きなメリットがある。事業の発注者として、当検討会を通じ、安全かつ低コスト高効率な作業システムである列状間伐がより一層推進されることに期待する。」との挨拶で閉会しました。



# 高尾の森から

高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという市民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。今回は、秋期以降に実施した活動の中からいくつかご紹介します。

## 【森林カレッジⅣ】

今年度4回目の森林カレッジは、東京大学名誉教授の谷田貝光克先生を講師にお招きし、高尾山国有林の自然学習体験施設で12月19日(土)に受講生17名と聴講生15名(森林ボランティア「フォレストサポータースタッフ」)が参加し開催しました。



窯内への火入れ

開会式の後に「伏せ焼き」1箇所(スギ材)とドラム缶窯2箇所(竹材)の3班に分かれ、各窯の焚き口から団扇で窯中に火入れのため



矢田貝先生の講義

熱風を送り込み、予定していた時間内に作業を無事終えることができました。午後は、谷田貝先生の「森林の恵みと共に

く炭焼き、そして森の香り」と題した講義で、①炭の種類・構造・新たな用途、②木酢液の抗菌・抗ウィルス作用、植物成長促進作用、③木においては気分を和らげストレスを低減、④スギの香りは胃潰瘍を抑え・咳を抑え・睡眠効果を高め、花粉症・アトピーのかゆみを止める、⑤笹餅・桜餅などフイトンチッドは生活の中で身近に利用されているなど、受講生は興味深く受講していました。

その後、「窯閉め」の説明を行い、次に簡単に炭を作る「花炭」を体験しました。

受講生からは、「炭の効果を改めて認識した」「木の様々な効果や海外における炭の利用についても知ることができた」「木の香りが身体に及ぼす影響を学べた」「子供にも炭焼きを体験させたい」などの感想をいただき好評のうちに日程を終えました。

## 【森林教室等】

当センターでは、小学校4・5年生の社会科や理科の学校教科書に沿って、「産業としての森林・林業」や「人々の生活と環境・森林との関係」等について学びたいとの学校からの要請を受け、学校と連携し森林教室等を行っています。

校外学習の季節を迎える秋期以降には、渋谷区立加計塚小、墨田区立菊川小、八王子市立みなみの君田小、同上柚木小、同第三小、同片倉台小、同七国小、同城山小、横浜市立下田小、同谷本小、相模原市立作の口小の11校約1000名が森林散策などの体験をしました。

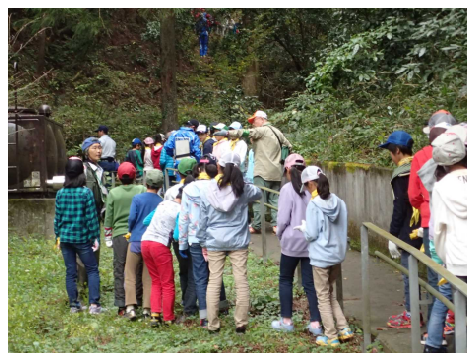
最初に、水はどこから来るのか、地球温暖化防止と森林の役割、樹木の生長の仕組みなどについて、DVDや職員が作成したスライドなどで学んだ後、丸太切りの体験や森林散

策を行いました。先生方からは、「中身の濃い森林教室でした」と好評をいただきました。

## 【特別企画リース作り体験教室】

11月30日(月)～12月4日(金)の5日間「リース作り体験教室」を開催し、期間中は約40名の方に参加していただきました。

皆さんワクワクいっぱい楽しそうな表情で、ツルやマツボックリの輪をベースにして、飾りつける木の実や葉っぱを選び、デザインを考えていました。「小学校時代の工作時間を思い出した」「自分だけの素敵なリースができた」と大満足の様子で、「またイベントがあれば参加したい」と、うれしいコメントをたくさんの方からいただきました。



森林散策



リース作り体験



# 森づくり最前線

福島森林管理署白河支署 大平森林事務所 森林官 和氣 貴博

大平森林事務所は、福島県の県南中央に位置する岩瀬郡天栄村のうち、支署全体の3分の1に当たる1万畝を管理しています。

天栄村は、昭和30年の合併から村制施行60周年を迎えました。村名は、ほぼ村の中心にある天栄山（標高881㍎）から名をつけたと聞いております。天栄村は、奥羽山脈を挟んで釈迦堂川流域の太平洋側と鶴沼川流域の日本海側にまたがり、東西約36キロメートルにおよびます。

また、農業用水の不足しがちな白河地域に供給する阿賀野川水系の羽



羽鳥湖

鳥ダムはアースダム（主に土を用い、台形に築いたダム）として全国屈指の規模を誇り、ダム周辺には、サイクリングロード、オートキャンプ場、スキー場、ゴルフ場、羽鳥湖（ワカサギ釣り）等のレクリエーション施設が整備されている外、天栄、湯本、二岐などの温泉も点在し、年間を通じて楽しむことができます。

今年で33回目となる二岐山（標高1544㍎）の山開きには、約420名の参加者がありました。山頂からは、飯豊連峰や磐梯山、羽鳥湖高原一帯を見渡すことができ、大パノラマを満喫できます。



二岐山（ふたまたやま）

二岐山の麓には、風力発電（平成11年より）や地熱発電（平成17年より）といった施設が設置され、自然エネルギーの利用にも取り組んでいます。



風力発電

当事務所も他事務所と同様の業務ではありますが、冬には多量の降雪・積雪があるため、春から秋までの期間に現場業務をこなさなければなりません。

地元の方々からの要望にも即対応すること、代々の森林官が引き継いできた国有林を次世代に引き継げるよう森林整備することに留意しながら、業務遂行してきます。

4月に着任してから約10ヶ月たち

ますが、まだ行っていない箇所もあるので、支署職員及び元職員である非常勤職員の方の協力をいただきながら引き続き管内把握に努めていくこととし、これからも健康に留意しながら明るく楽しくかつマンネリ化しないよう精進していきます。



スキーリゾート天栄

■編集発行所 関東森林管理局  
TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 230-1393